

委員会だより

< 9月7日(日) 16名出席 >

- ◆ 神父様から
 - ◆ 秋に2週間カナダへ帰国。予定は10月22日(水)～11月7日(金)。【従って10月26日と11月2日のミサは出来ない】
 - ◆ 留守中のミサは、司教様の了解もあるので、司祭不在のまま「集会祭儀」のかたちで高野助祭に一任。ミサではなく、「集会祭儀」という形をとる。奉献文はなく、予め用意しておいたご聖体によって聖体拝領が行われる。
 - ◆ 「七五三のお祝いのミサ」は11月9日(日)に行う。
 - 1. 7月、8月度会計報告(甲斐委員、資料配布)
 - ◆ 一般会計:区民クリスマス参加費 20,000円など支出。
 - ◆ 建設会計:インターホン設置 84,000円支出。
 - ◆ 愛の献金:イラク支援(50,000円+信徒献金33,537円)送金
 - 2. 一粒会報告 8月単月献金 11,600円。累計 250,900円。
 - 3. 敬老会お祝いの件(阿部委員)
 - ◆ 75歳以上としたので、対象者は35名。ミサ、お祝いのあと新集会室にて歓談。
 - 4. 主日ミサの流れについて(小山委員)
 - ◆ 婦人会で標記に関する質問があったので、7月23日に神父様を交えて相談。以下について委員会として確認した。
 - ① 聖書朗読…第一朗読は男性、第二朗読は女性が担当
 - ② 共同祈願は従来どおり担当。

	第一朗読	第二朗読	共同祈願	奉納
第一日曜日	壮年会	婦人会	壮年会	壮年・婦人
第二日曜日	青少年	青少年	青少年	青年・青年
第三日曜日	壮年会	婦人会	婦人会	壮年・婦人
第四日曜日	壮年会	婦人会	壮年会	壮年・婦人
第五日曜日	壮年会	婦人会	婦人会	壮年・婦人

 - ③感謝の典礼の奉納で、パンとぶどう酒は共に司祭に渡す
5. 第5地区湘南キリスト教セミナー報告(小野寺委員)
 - ◆ セミナーの日程と内容
 - 11/15:青木昭氏「シスターのメクランジェロー13年間の修復の記録」
 - 11/22:細谷亮太氏「医師としてできること、できなかったこと」
 - 11/29:国井健宏師「キリスト教音楽の旅ークリスマスに向かって」
6. バザー委員会中間報告(福島委員)
 - ◆ バザー券の賞品が決定した。
 - ◆ 今後提供される商品券などは、復活賞ではなく飲み物などに交換して、壮年会で販売する。
 - ◆ チラシは昨年度のものを流用。
 - ◆ つり銭準備は各販売係りで個別に準備。(甲斐さんより確認)
7. 教会委員任期満了による次期委員の選出
 - ◆ 推薦準備委員会(神父様、壮年会会長、婦人会会長)の第一回会合を9月28日(日)に行う。
8. その他
 - ◆ 第12回典礼研修会ー10月5日(日)磯子教会にて開催。(参加者は典礼委員、教会学校関係者など3名以内) ⇒ 参加予定:青柳、井上、島倉さん。
 - ◆ スリッパの新調 ⇒ クリスマスまでに補給する。
 - ◆ 葬儀時の腕章が用意された。壮年会で保管しているので活用してほしい。(下村委員)
 - ◆ 神父様の出張: 9月21日(日)～25日(木)

壮年会だより

< 9月21日(日) 10名出席 >

- 9/7 教会委員会報告(詳細は広報なかわだ)
- 10月の壮年会聖書朗読者(当番表参照)
- 審議事項
 - 9/7 教会委員会からの要請事項
 - 主日ミサの流れ変更
 - ◆ 10月より変更のため、審議し上記2.により決定した。
 - バザー委員会からの要請事項
 - 10/11(土)バザー買い物担当
 - ◆ 下村さん・竹内さんに決定した。
 - 壮年会関係
 - 秋のハイキング予定について(山田さん)
 - ◆ 月日:11月15日(土)
 - ◆ 場所:弘法山公園
 - ◆ 10月に入ったら、ポスターを掲示する。
 - 中和田教会壮年会々計取扱細則について(下村)
 - ◆ 中和田教会壮年会運営規定で定められた壮年会費を、円滑かつ合理的に取り扱うことを目的に、壮年会々計取扱細則が提案され審議した。
 - ◆ その結果は、一部を修正して全員一致で承認された。
- 報告事項
 - 10月ロザリオの祈りについて(萩原さん)
 - ◆ 毎週日曜日のミサ前8時30分より行なう。
- 自由発言
 - 山崎神父様の図書整理について(小野寺さん)
 - ◆ 図書については全て処分が済み、プレハブハウスの書棚を本日壮年会終了後集会室に移動させる予定でしたが、雨天のため中止します。別途日時は決めます。
 - 動く売店について(花坂さん)
 - ◆ 従来の売店は閉鎖致しましたが、今後は「動く売店」として、鈴木さん・七浦さん(共に婦人会)に担当して頂きます。

婦人会だより

< 9月21日(日) 36名出席 >

- 委員会報告(委員会だより参照)
 - バザー関連事項
 - 9月14日(日)からバザー券、食券の販売が始まっています。
 - 10月2日(木)10時から・・・商品の値段つけの作業。
 - 10月11日(土)9時から・・・マドレーヌケーキの試作。
 - 10月16日(木)13時から・・・マドレーヌケーキづくり。
 - 10月18日(土)13時から・・・バザー前日の準備作業。⇒16時からミサがあります。
 - 10月19日(日)・バザー当日7時から・・・準備作業開始。⇒早朝ですが、できるだけお手伝いをお願いします。
 - 食堂のうち、「みつ豆」を「白玉あん」に変更しました。
 - 紅茶、砂糖のご提供をお願いします。
 - 売り場担当できる方は、掲示の表のご希望欄に記入下さい。
 - お知らせ事項
 - 石崎ゆう子さんが藤沢教会へ転出されました。(住所、電話に変更はありません)
 - 故花坂様の追悼ミサが10月13日(月)10時から行われます
 - 教会の売店の新しい担当者として、鈴木矩子さん、七浦昭子さんが当たってください。
 - 横浜教区婦人同志会の年内の行事予定として、黙想会や、高齢司祭援助を目的とした歌舞伎鑑賞などが紹介されました。(詳細は追って) ご協力をお願いします。
- 次回例会は10月26日(日) 当番はD地区です。



9月14日に『敬老の祝福』の御ミサが捧げられました。



広報 **なかわだ**
第294号

10月の予定

委員会	10月 5日
壮年会、婦人会	10月 26日
バザー	10月 19日
レジオ	10月 10, 17, 24日



2003年 10月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141
平成15年10月5日



違いを超えて、豊かな交流と絆を

主任司祭 ジャック グルニエ



10月7日、教会暦では、『ロザリオの聖母』として聖マリアを記念する日です。

この記念日が定められたのは、今からさかのぼってちょうど432年前のことです。きっかけになったのは次の出来事です。当時、ヨーロッパ・レバントの海戦で、キリスト教徒がオスマン・トルコに対して勝利を収めたことがありました。そしてその勝利は、ロザリオの祈りによってもたらされた聖母の助けによるものであると信じられていました。

その当時の社会は、キリスト教徒とイスラム教徒(特にオスマン・トルコ)が、現代のナショナリズムがどうなのか知りませんが、とにかく政治集団、異なった民族としてよりも、信仰共同体そのものとして、直接にそれぞれの旗を掲げてすごく対立していたのです。やはり、信仰心とは本来文化間における違いを豊かな交流と絆へ導く機会であると広く認められるまでには、まだまだ長い道が残っていたといえましょう。

ところが、ちょうど今年28日に行われる「カトリック難民移住移動者の日」に当たっての教皇メッセージの中に、次のような喜ばしい呼びかけが聞こえます。『多様な文化を生きている移住者を本当に受け入れていく道は、実際大変に困難なものです。しかし、多様な文化からなる共同体が、他のキリスト教会共同体との一致の賜物を深める良い機会を提供してくれることは言うまでもありません。実際、それらの多くは、自分たちの共同体の中で、またカトリック教会と一緒に、移住者の文化や特別な賜物が心から感謝され、人種主義や外国人排斥や過度のナショナリズムが反対される社会を作るために働いてきました。』

皆さん、わたしたち中和田教会は『神の母聖マリア』を天的保護者としていただいている現実があります。そう称されたマリアさまは、同時にわたしたち自身の母でもあるのではないのでしょうか。というのは、キリストと同じくわたしたちが神の子と呼ばれ、またその「神性に与かる者」としていただいたわけですから。これからも、地元の人とも、そうでない人とも、とにかく他の多くの神の子と一緒に、神とわたしたちの家における雰囲気、かかわりを具体的に形作っていきましょう。まことに、マリアに倣って!

ミサ当番表 (2003年 10、11月)

月/日	主日	朗読	共祈願	奉納	侍者	オルガン	月/日	主日	朗読	共祈	奉納	侍者	オルガン
10/5	第二十七主日	小野・石井滯	小野	小野・石井滯	石崎	岩淵	11/2	死者の日	壮・婦	壮	壮・婦	石崎	森田
10/12	第二十八主日	青年会	青年会	青年会	下迫瑠	森田	11/9	ラテラン教会の献堂	青	青	青	下迫瑠	保科
10/19	第二十九主日	山田・楠田	石井悠	山田・楠田	下迫	保科	11/16	第三十三主日	壮・婦	婦	壮・婦	下迫	岩淵
10/26	第三十主日	小野寺・花坂	小野寺	小野寺・花坂	石井犬	岩淵	11/23	王であるキリスト	壮・婦	壮	壮・婦	石井犬	森田
							11/30	待降節第一主日	壮・婦	婦	壮・婦	石崎	保科

当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は
典務委員(萩原氏:TEL 802-6258)迄お申し出下さい。



ロザリオの祈りと私

山中 嘉子

水曜日、今日はロザリオの祈りのうち、「栄えの玄義」の日である。「聖霊の賜物をこいねがわん」、この黙想に、私は何となく嬉しくなる。時々忘れていた「仕える心や忍耐」など……、私も聖霊のたまものをお願いできるのだと思うと、ロザリオの祈りがより親しく唱えられる気さえする。

夫が亡くなってから、自分の腰痛がひどくなって、また、両膝も悪くなって、杖を曳くようになってしまった。歩くことも不自由になってきたが、ご弥撒には車で迎えに、また送ってくださる方々に恵まれ、聖堂で主の日の食卓にあずかり祝うことの喜びに、唯、感謝でいっぱいである。

一人で歩きたいの思いは、整形外科通いとなって早や三年余り。週3、4回のリハビリ通いも、症状のはかばかしくなく、歩きたい希望は程遠くなってしまったが？……。

でも、根気よくリハビリに通っているが、このリハビリの時間が、結構いろいろやるので小一時間かかる。思いがけずこの時間が、私の恵みのロザリオを祈れる時間となっていった。以前は、何か特別の希いの祈りという感じをもっていたが、今は、朝晩や寝る前の祈りと共に、このロザリオの祈りも自然に祈れるようになった。

リハビリの間に、ロザリオの祈り一環（天使祝詞50回）が十分に唱えられる。日々の玄義を黙想しながら、又、こんな祈りの形をおわびしながら、毎日祈りに支えられて、今日もリハビリ通いに励んでいる私である。

“秋深む 力まず今日の 杖を曳く”

萩と秋芳洞観光



花坂 昌子

乙女峠での野外ミサは、殉教した36名の尊い霊魂のために捧げられました。「氷責め」「牢責め」「食責め」などがあつた所を訪れて、感慨無量でした。峠に立つかわいひマリア聖堂に聖体訪問をして、私たちは次の予定地である萩へと向かいました。

一時間半ほどで到着、タクシー2台に分乗して市内観光をしました。まずは松蔭神社へ。ここは吉田松蔭が祭神として祭られ、筆やつづりが納められています。境内には、高杉晋作や伊藤博文らが学んだ松下村塾や松蔭幽閉の旧宅などがあり、大勢の人が訪れていました。次ぎに訪れた東光寺は毛利氏の菩提寺で、五百基の石灯籠が両側に整然と並び、周囲を松やもみじが囲み、屋根の鬼瓦も見事です。武家屋敷町には毛利時代の城下町が残っていて、白い土塀は厚さが1メートル程もあり、道は丁字路となって敵に備えてあり、なんとも風情のある町並みでした。途中立ち寄った由緒ある萩焼きの店では、高価な品々に魅了されました。指月公園内にある萩城址天守閣跡は、石垣が残されているだけでしたが、なかなかの風情でした。

白い砂浜と青い日本海が間近のホテルに着くと、私たちは早速海岸に散歩に出かけました。「菊が浜」は歩くとも砂がギョッギョッと鳴り、海は夕日に輝いてキラキラひかり、静寂そのもの。心身の疲れをすっかり癒してくれました。新館のホテルは気分爽快。ひとやすみのあと、ホテルの小型バスでまたまた城下町の見学。ホテルのオーナー自らの、マイク片手の浪花節調のガイドにみなは大いに楽しみました。

三日目早朝9時、ホテルのバスで萩バスセンターまで送っていただき、秋芳洞へ向かいました。秋吉台に近づくと、草原の上に石灰岩が様々な形でちらばっています。日本最大のカルスト台地です。秋芳洞は、3億年のむかし海底でサンゴ礁として生まれた石灰岩が、雨水に溶ける性質上、秋芳洞に流れ落ちて自然の造形をつくりあげたということです。地下100mにあり、全長は10kmほどですが、探勝できるのは1kmだけです。入口から溪流に沿って行くと、岸壁が大きく口を開け、洞内の高さ、幅とも24mと広い。長淵は湖水のように静かです。さらに川沿いに歩くと、「百枚皿」(水を張った段々畑のようなのが500以上もある)や「広庭」「千枚田」などが続き、岩天井から細く、長く、太く、短く群をなして数十本の鍾乳石のつららが並ぶ「傘づくし」の眺めは見事でした。壁面に沿って、高さ28m、直径8mの黄褐色の巨大な石灰華柱がそそり立つ「黄金柱」は、自然の力を感じさせます。薄暗い洞窟の中を手すり照明を頼りに歩いて、黒谷出口に出ました。外の光が目眩しかったこと！

タクシー2台に分乗して、秋吉台の山頂へ向かいました。パノラマに展開した山々は、長径17km、広さ130平方km、標高が200～400mのカルスト台地で、石灰岩と草原のコントラストが雄大で美しい。

車はもと来た洞窟の入口に戻り、そこから小郡駅までバスに乗り、新幹線ひかり号で横浜へ帰ってきました。楽しかった旅のすべてを計画して下さった石川さんはじめ、お世話をかけた皆様に感謝。



聖フランシスコの足跡を訪ねて (2)

山田 孝信

3月25日(月) (フィレンツェ～アッシジ)

この日は小高い丘の上にあるミケランジェロ広場に向った。ここからは大きなクーポラ(大円蓋)をもつ美しいドゥオモ「花の聖母大聖堂」とジョットの鐘楼などフィレンツェの町を一望することができた。左側にはヴェッキオ橋、ヴェッキオ宮、右にはサンタ・クロッチェ教会が見えた。この丘から坂を下りサンタ・クロッチェ教会を訪れた。ここはフランシスコ会の教会で、ミケランジェロや、ガリレオ・ガリレイ等の墓があり荘厳な雰囲気か漂っていた。それから私達はフィレンツェを後にして、今回の旅のメインであるアッシジへ向かった。

バスの窓から、遙か彼方にスバシオ山の中腹に張り付くようなアッシジの街が見えてきた。だんだん近付くにつれ、左側にある聖フランシスコ大聖堂が大きく見えてきた。最初に訪れたのはサン・ダミアノ教会である。この教会とフランシスコとの関わりについて少し紹介したい。

1182年、フランシスコは裕福な織物商の子としてここアッシジに生まれ、何不自由ない恵まれた日々を過ごしていたが、大変な遊び好きで、湯水のように金を浪費し、友人達には毎晩のように振舞っていたようだ。やがて騎士道に憧れ18歳の時、アッシジとペルージャとの戦争に参加し、敗れて捕虜となる。父の保釈金でやっとのことでアッシジに帰還することができたが、その後再度皇帝軍と戦闘状態にあつた教皇軍に参加した。彼はスポレートに着いた夜、夢の中で「フランシスコよ、お前はどこに行こうとしているのか、お前は主人としもべとどちらに仕えたいのか。」という声を聞く。帰郷したフランシスコは、騎士になる夢を捨て、神と共に生きる道を選ぶことになる。

そんなある日、フランシスコはサン・ダミアノ教会の十字架から「崩れようとしている私の家を建て直さない」という声を聞く。彼はその声を純粹に理解し、聖堂の修復を始めたのだ。このサン・ダミアノ教会は神の声を聞いた場所であり、また最初に修復した教会である。またフランシスコの弟子の聖クララが終生の住まいとして使ったところでもある。後に小さき兄弟会の修道院となったが、今も祈りの場としてふさわしい質素な雰囲気が漂っている。

次に聖クララ大聖堂を訪れた。イタリアゴシックの堂々とした建築で、アッシジの裏山で採掘された薄いピンクの大理石で建造され、正面に大きなバラ窓をもつ美しい教会である。祭壇にはフランシスコに語りかけた「サン・ダミアノの十字架板絵」が掲げられている。地下聖堂には聖クララの遺体が今も腐敗せずに安らかに眠っている。

今日の最後は聖フランシスコ大聖堂である。上下二層の大聖堂は、フランシスコの死の2年後、1228年に聖人にあげられた直後に聖堂の建築が始まり、下部聖堂は1228年～1230年、上部聖堂は1230年～1253年にかけて建てられた。

下部聖堂には、聖書を題材としたジョットー、チマブエ、ピエトロ・ロレンツェティ等の画家による傑作がずらりと並んでいる。ここから地下に降りたところに地下聖堂がある。ここには聖フランシスコの墓がある。

上部聖堂の左右の壁にはジョットーとその弟子達による「聖フランシスコの生涯」の二十八の場面が描かれており、「父に持物のすべてを返すフランシスコ」「小鳥への説教」「ラ・ベルナ山で聖痕を受ける」等その生涯が偲ばれる。



アッシジの聖フランシスコ大聖堂

お知らせ

転出

石崎継男・ゆう子様 藤沢教会へ(8月15日付)

教会売店担当者

新しく 鈴木矩子さん、七浦昭子さんに決まりました。

ロザリオの月

10月は「ロザリオの月」です。毎日曜日8時30分から聖堂でロザリオの祈りをを行います。

新ホームページ開設

ホームページが全面改訂されました。下記urlにアクセス下さい。
<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

バザー

10月19日(日)に、恒例の中和田カトリック教会のバザーが開催されます。